学界消息

史学研究会

大会　一一月一日（日）午前一〇時―午後三時　文学部史学科陳列館開放・史料展覧

一一月二日（月）午前九時　於楽友会館講演室

開会の辞

総会　会務報告　佐伯・藤岡両理事

講演

古墳群調査の問題点　横山　浩一（共同研究）

大阪を中心とした都市群の形成　藤岡謙二郎

傭兵制度の歴史的研究――その経過と成果――　前川貞次郎

会田　雄次（共同研究）

近畿地方農・山村の歴史的・民俗学的について　柴田　実

明代蘇松地方の士大夫と民衆　宮崎　市定

一一月二日（月）午後六時　晩餐会

参会者は二百名をこえる盛況であつた。

例会　一二月五日（土）午後一時

楠瀬　勝　「十四・五世紀土豪層の支配形態の変質――南北朝動乱の歴史的意義――」

小野川秀美　章炳麟の民族思想

京大国史関係

恒例により、読史会大会は、一一月三日、京大文学部第一教室で行われた。例年より参会者はやや少なかつたが、それでも左掲のような多彩な内容と発表者とにより、大会は進行した。とくに、広島大学から河合正治氏の発表をえたことは喜ばしいことであつた。だが、いま一つ討論が活潑にならなかつたことは、今年の反省をかねて、来年への課題とすべきであろう。

開会の辞

外来神信仰について　赤松　俊秀

薬子の乱の史的位置　吉川　正通

土地制度の改革と農民の生活　内田　亀雄

肥前山内の郷士　城島　正祥

寛政の改暦をめぐつて　末中　哲夫

西洋列国史略について　高瀬　重雄

光明皇后御願一切経と東大寺聖語蔵　堀池　春峰

融通念仏と六斎念仏　五来　重

快慶と重源　毛利　久

戦国大名としての毛利氏の性格　河合　正治

和泉国近木庄について　福尾猛市郎

我国における化学繊維工業の発達について　大石　良材

古代社会における文化変容の一例　三品　彰英

閉会の辞　小葉田　淳

大会後、午後六時より紫明会館において、懇親会をもち、約六〇名の参加をえ、和気あいあい裡に散会した。

読史会例会　一一月二八日（土）

明治時代の郵遞制度　天野　安治

明治前期の労働運動　山本　四郎

京大東洋史関係

羽田亨博士の文化勲章受賞　去る昭和二十八年十一月三日文化の日、東洋史学界の泰斗、とくに西域史の研究に他の追従をゆるさぬユニークな足跡をのこされた羽田亨博士は、本年度の文化勲章を受賞された。ここに祝意を表し、あわせて後進の指導を切望したい。

東洋史談話会大会　一一月三日　於京大人文科学研究所講堂

間野　潛龍　「明代の家規について」
菊地　英夫　「五代禁軍の外地屯駐について」
米田賢二郎　「漢代辺境兵士の給与について」
藤本　勝次　「イブン・ハルドゥーンの王朝論」
今堀　誠二　「宋代における社会事業の性格について」
佐口　透　「コーカンド汗国の東方政策」
水野　清一　「仰韶と殷墟」
板野　長八　「孝経の成立」

学界消息

杉本直治郎　「マルコポーロのラテン語訳初版とコロンブスの書入れ」

大学院懇親会　一一月一四日

塚本　俊孝　「南唐王室の仏教信仰」

東洋史研究会　十二巻三、四号合評会　一〇月二九日（木）於人文科学研究所会議室

人文科学研究所開所記念講演会　一一月一四日（土）　於京大人文科学研究所講堂

天野元之助　「中国農業の展開」

京大西洋史関係

西洋史読書会大会　史学研究会大会の一環として行われた西洋史読書会大会は恒例通り一一月三日京大楽友会館で開催され、本年度は多くの他学講演者を迎え盛会裡に終った。前日の史学研究会大会においては西洋史関係の発表者として前川貞次郎氏、会田雄次氏の「傭兵制度の歴史的研究」なる綜合研究の成果報告が行われたが、三日の発表者は左記の通り。

森岡敬一郎（慶大）「ヘンリー三世末年におけるバロンズの動向とイギリス封建勢力」

藤原　国男（京大）「黒死病と十四世紀のイタリア絵画」

川口　博（京大）「百年戦争とノルマンディー」

越智　武臣（京大）「十五世紀英国社会の一様相」

益田　健次（山口大）「カルヴァンの思想の形成」

紀藤　信義（広大）「一六二四年の独占条令について」

川村　大膳（関学大）「ロバート・グレヴィルの自由思想について」

前川貞次郎（京大）「革命裁判所の成立をめぐって」

岸田　達也（名大）「ウェーバーのマイヤー批判について」

西洋史読書会例会　一一月二七日

中村　哲雄　A. M. Schlesinger, The Age of Jackson.

大石　徹　W. Maehl, The Triumph of Nationalism in the German Socialist Party on the Eve of the First World War.

京大地理学関係

地理学談話会大会　十一月三日　於京大文学部第八教室

井関弘太郎「日本デンマーク地帯の農業構造――組合制度の意義について――」
三友国五郎「薩南諸島の歴史地理」
共同研究　都市域の山村調査（その一）――京都市旧花背村・久多村を中心として――
藤岡謙二郎「A調査に関する前言及び集落と交通の変遷」
西村　睦男「B人口とその変遷」
小池　洋一「Cの一、経済構造の概観及び林業」
浮田　典良「Cの二、農業の推移」
末尾　至行「Cの三、労働と経済生活」
石川　栄吉「D、社会生活の展望」
終了後鳳山にて懇親会を催す。

人文地理学会大会　十一月一日　於京大文学部

福永　正三「町村合併に伴う新行政地域の名称について」
林　正巳「町村合併に表われた地域性」
勝目　忍「鹿児島港の商圏について」
前川　宗男「滋賀県の農業様式について」
梶谷　輝雄「近江盆地における米作主要産地の変遷」
松田　峻「高原開拓の自然性と人文性」
樋口　節夫「大阪の露店ヒラビとホーエその地理的配布」
細井　淳一「東日本における密柑栽培地帯の農家構造の変貌過程について」
斎藤　晃吉「後進地域農村の問題」
末尾　至行「フランス農村工業地域研究」
武井　錠一「カリフォルニア中央平原の灌漑汚」
小池　洋一「南山城の水害について」
千葉　徳爾「近畿諸盆地周縁のはげ山について」
稲見　悦治「断層崖の土地利用」
岡本　啓志「旧軍用地の土地利用」
籠瀬　良明「関東の水田直播概観」
庄司　久孝「岡山県のたゝら」
伊藤　郷平「日本農業における労働構造の地理学的研究」
内田　寛一「現行割賦制の一例」

以上第一会場

木下　良「人口移動に関する一考察」
堀川　倪「通婚圏とその拡大」
山崎　禎一「一九三七～五一年間の世界国別人口の一研究」
石田　寛
中田　栄一
当麻　成志
須藤　賢「漁村の社会地理学的考察」
田中　秀作「近郊山村の地域構造第三報」
「中門造民家の発生と普及」
「北海道都市におけるフロンティア性」
樫原　只好「アレクサンドル以前におけるアラビア周辺の海上交通について」
金子　廉「地理学史の一こま」
伊藤　安男「日本石器時代集落立地に関する二、三の問題」
「城下町の成立」
矢守　一彦「町人請負新田の地割構造」
池浦　正春「山地における交通形態の変化と町村の分合」
西村　嘉助「王朝時代の阿波の集落」
福井　好行

谷岡武雄「東播平野における条里」
山田安彦「大井川三角洲における新田集落の分布」
佐々木清治「宍道湖水位についての一考察」
松本博

以上第二会場

人文地理学会第三回例会　十二月十二日　於大阪市立美術館講堂
位野木寿一「大阪の河川網と渡船網」
川喜田二郎「ネパール見聞談及び幻燈映写」

京大考古学関係

考古学談話会　一一月三〇日（月）後三時　於楽友会館
岡崎敬「北海道旅行談」
陳顕明「岡山県月の輪古墳について」
釣田正哉「最近の平城宮址における発見」
坪井清足「佐賀県水田遺跡の甕棺調査」

会員移動

新入会

森暢
巨海哲男
杉本嘉八
三島一
村山光一
勝野隆信
京都大学農林経済研究室
佐賀県立図書館

住所変動

有坂隆道
笠原一男
川上喜代四
岸本準二
田中健夫
土井仙吉
村尾一夫
山本守
横田健一

死亡

守屋孝蔵
安河内博

編集後記

年末年始に重なつて少し発刊の遅れていた史林第三七巻第一号がいよいよ会員諸兄姉の許に届けられることになりました。各位の御援助によつて発刊を遅滞させていた諸般の事情も漸次克服され、本年度からはまた新しい編集委員の陣容を揃え、懸案の隔月間発行をも望み得る段階に達しましたことを、われわれは大いなる喜びとしています。本号は巻頭に赤松俊秀氏の新史料による座の研究を得ましたが、けだしこの研究分野における問題作たるを信ずるものであります。また最近いろんな史学雑誌において西洋史関係論文の貧困が目立つときに瀬原義生氏の所論をえたことも幸いであり、ドイツ農民戦争についての問題点を更に凝結させたものとして注目されるのであります。村田数之亮氏の学界動向は氏の著実な作風を示すものであり、石川栄吉氏の新鋭なそれと玩味されんことを期待します。（越智）